# 北海道における若年層の交通事故死者数減少要因に関する一考察

(独)土木研究所　寒地土木研究所　　正会員　○小寺　紳一
同　上　　正会員　平澤　匡介
同　上　　正会員　浅野　基樹

## １．はじめに

平成 18 年の北海道の交通事故死者数は、６年連続で減少し 277 人となり昭和 28 年以来 53 年ぶりに３百人未満にとどまった。年代別の交通事故死者数では、特に 24 歳以下を中心に若年層が減少している。その要因として若年層の人口減少があるが、年齢層別単位人口当たりの交通事故死者数についても若年層の減少が目立っており、若年層の自動車利用における何らかの変化が、近年の交通事故死者数減少の大きな要因の一つとなっていると考えられる。

そこで本報告では、アンケート調査から若年層の交通事故死者数減少要因を分析したのでその結果について述べる。

## ２．若年層の交通事故の特徴

図１は、北海道における若年（20 歳代）の状態別死者数の経年変化を示した。20 歳代全体の死者数は、近年急激に減少している。状態別では、特に運転中の死者数が著しく減少している。

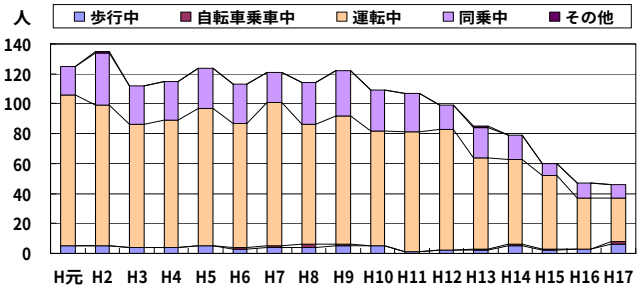


図１　状態別死者数の経年変化[1)]

（北海道・20 歳代）

## ３．アンケート調査の概要

本アンケートは、若年層の自動車利用における変化に着目し、自動車利用実態及び道路と車の安全性に対する意識に、近年どのような変化があったのかを調査することとした。調査の概要は表１の通りとした。なお、アンケート調査では、各年齢層に対して「初めて車を運転した頃」のことについて質問した。各年齢層の若年期について比較すること目的としているため、初めて車を運転した頃が 25 歳以上であった回答を集計から除外した。

表１　アンケート調査概要

| | |
|---|---|
| 調査期間 | 平成19年２月８日～２月12日 |
| 調査箇所 | 道路情報館（札幌市南区） |
| 調査対象 | 北海道在住の普通免許所有者 |
| 調査方法 | 直接配布、直接回収 |
| サンプル数 | 445人 |

## ４．アンケート調査結果

（１）自動車利用実態

図２では、初めて車を運転した頃の年間走行距離の回答結果を年齢層別に割合で示した。年間走行距離が 1,000㎞ に満たない割合は、24 歳以下及び 25～29 歳が高くなった。また、年間走行距離が 10,000㎞ 以上の割合が最も高いのは 35～39 歳、最も低いのは 65 歳以上、続いて 24 歳以下となった。現在の 30 歳代から 40 歳代

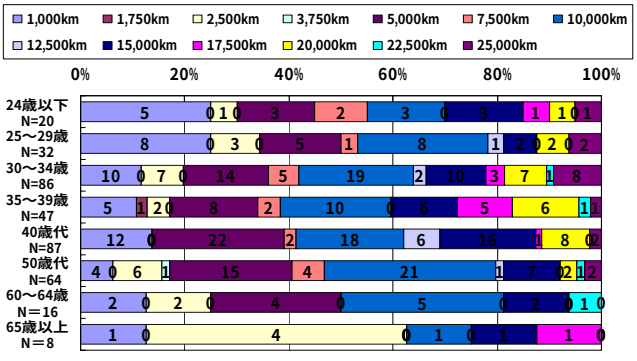


図２　初めて車を運転した頃の年間走行距離

キーワード　交通事故，死者数，減少要因，若年，道路，アンケート調査
連絡先　〒062-8602　札幌市豊平区平岸１条３丁目１番 34 号　(独)土木研究所寒地土木研究所　ＴＥＬ011-841-1738

の年齢層は、現在の若年や高齢者に比べ、若年時に多く自動車を利用していたと考えられる。

図３では、初めて車を運転した頃の峠の年間利用回数についての回答結果を年齢層別に割合で示した。峠の利用回数が年１回以下の割合が最も高いのは 24 歳以下、次に 25～29 歳続いて 60～64 歳となった。峠の利用頻度が年６回を超える割合が最も高いのは 35～39 歳、次いで 30～34 歳となり図２の年間走行距離とほぼ同様の傾向がみられた。

図４では、初めて車を運転した頃によく運転していた車の種類についての回答結果を年齢層別に割合で示した。軽自動車の割合が最も高いのは 24 歳以下、最も低いのは 40 歳代となった。スポーツカーの割合は、最も高いのは 35～39 歳、そして 24 歳以下の若年及び 60～64 歳の高齢者では０となった。若年時にスポーツカーの割合が高かった 30 歳代と比較し現在の 20 歳代ではその割合が減少し、軽自動車や RV、SUV 車が増えていることが分かった。

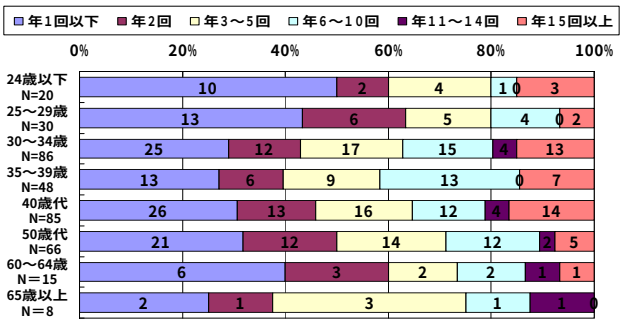


図３　初めて車を運転した頃に峠を運転する頻度

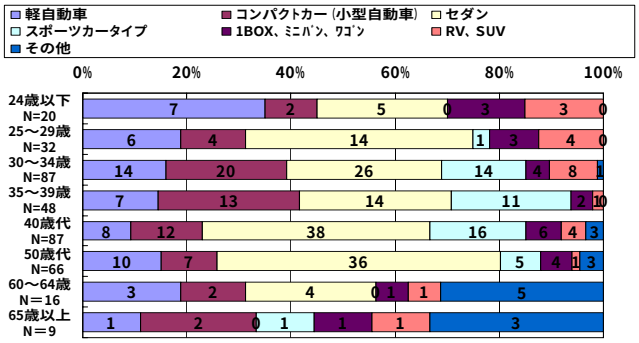


図４　初めて車を運転した頃によく運転していた車

（２）道路と車の安全性

図５は、初めて車を運転した頃と現在の道路と車の安全性についての５段階評価（１：非常に低かった～５：非常に高かった）の結果を示す。縦軸の評価点は、各年齢層の評価の平均点をプロットしており、点数が高いほど安全性を高く評価している。また横軸には、初めて車を運転した当時の西暦を、別途調査の結果から換算し示している。グラフでは、道路と車いずれも年々安全性評価が高くなってきている。

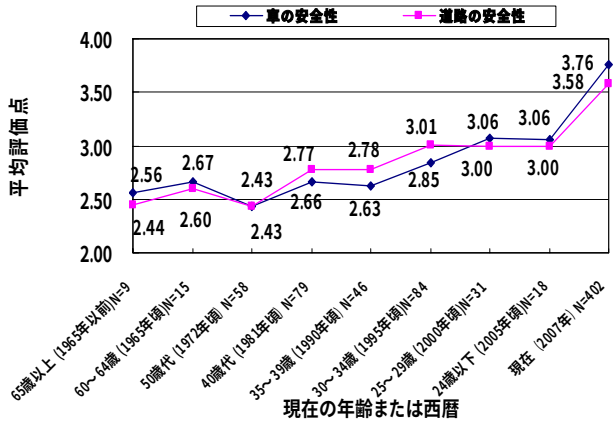


図５　安全性に対する５段階評価

## ５．おわりに

今回、アンケート調査により若年期における自動車利用状況や運転環境の変化について調査を行なった。その結果、現在の若年ドライバーは、以前に比べて年間走行距離が少なく、峠を利用する頻度も減少傾向にあることが分かった。また、利用する自動車は、スポーツカーを使わないようになった。また、道路の安全性と車の安全性の向上をドライバーが感じていることも明らかとなった。このことから、若年層の人口減少以外に、自動車利用の減少や使用車種の変化など自動車利用における意識の変化が、若年層の交通事故死者数減少の大きな要因の一つになったと考えられる。

## 参考文献

１）北海道警察本部,交通年鑑（平成元～17 年）